

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070202005
法人名	社会福祉法人タービュランス福祉会
事業所名	グループホーム根小屋
所在地	高崎市根小屋町1636-7 (電話) 027-320-1051

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(平成21年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人 非常勤 3人 常勤換算 7.1人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	熱水費 300円/日 ・テレビ代 100円/	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	又は 1日900円			

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	80歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡本内科クリニック ・ サンピエール病院他
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者の一人ひとりが、自立した生活と日々季節を感じとり楽しくそして快適に暮らしていただくため、居間や玄関には季節の花を掛け、花見やイチゴ狩り、花火やクリスマスイルミネーション見物、高崎市役所の展望食堂での夜景を楽しみながらの夕食等季節にあわせて行事を計画的に行っている。また、毎日朝と夕方入浴する入居者、朝の洗濯物たたみの後にコーヒーを楽しむ入居者等一人ひとりのペースを大切に、残存機能を活かし自立した日常生活がおくれるようできる限り手助けをせず見守りを重視した支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の改善課題である、「職員の異動等による影響への配慮」、「職員を育てる仕組み」、「チームで作る利用者本位の介護計画」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」について改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、数項目について実施状況等を職員から聴取し管理者がまとめているが、自己評価・外部評価を実施する意義を理解するまでに至っていない。再度自己評価及び外部評価の意義を確認され、評価を活かした具体的な改善に取り組まれるよう期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を隔月に開催し、行事報告や事故報告・意見交換等を行っている。構成メンバーから人事異動が頻繁に行われ職員の顔が分からないとの意見があり、異動した際は面会時に挨拶すると共に便りを発行し家族に紹介することとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、入居者の日常生活状況や健康状態等を面会時に報告し、病気等の緊急時には電話連絡している。また、クリスマス会や誕生会等に家族の出席を求め家族の意見や希望等を表明する機会をつくと共に面会時には何でも言える雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>幼稚園の雛祭りに招待されたり、地域の納涼祭や運動会を見物したり、廃品回収に参加している。近隣に住むお年寄りが野菜を持参し入居者と一緒にお茶を飲んだり、時には近隣のお年寄りを芸能ボランティア慰問の時の見物やドライブに招待する等地域との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、入居者の価値観や人生観を尊重し、季節感や地域との関係の構築・繋がりを大切にした介護の実践を柱とした事業所の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき初詣や法人内の特別養護老人ホームが開催するひな祭り、花見等季節ごとの外出や行事を多く実施している。また、地域との繋がりを大切にし、一人ひとりが季節を感じ取り、良い1日であったと思われる介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園の雛祭りに招待されたり、地域の納涼祭や運動会を見物したり、廃品回収に参加したりしている。また、近隣のお年寄りが、野菜を持参してきて入居者と一緒にお茶を飲んだり、芸能ボランティア訪問の際やドライブに近隣のお年寄りを招待したりしている。今後は、地域の幼稚園や小学校の運動会を見物できるよう区長と相談することとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、数項目について実施状況等を職員から聴取し管理者がまとめているが、自己評価・外部評価を実施する意義を理解するまでに至っていない。前回外部評価を受けて、職員の異動等による影響への配慮、チームで作る利用者本位の介護計画等について管理者自ら改善に取り組んでいる。	○	再度自己評価及び外部評価の意義を確認され、評価を活かした具体的な改善に取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に開催し、行事報告や事故報告、意見交換等を行っている。委員から、人事異動が頻繁に行われ職員の顔が分からないとの意見があり、異動した際は面会時に挨拶すると共に「便り」を発行し家族に紹介することとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定等各種更新書類を市の窓口を持参した際に、市担当者から認知症サポート研修の情報を得て参加したり、市ホームページに徘徊者情報が掲載されること等の情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活状況や健康状態等は面会時に報告し、病気等の緊急時には電話連絡している。職員の異動には便りを発行し、家族に紹介することとしている。また、家族からの預かり金は出納帳に記載し、面会時家族に報告し、出納帳に署名していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が順番に参加し、その中で意見や要望を出してもらい、サービスの向上に活かしている。また、玄関に意見箱を設置したり、クリスマス会や誕生会等の諸行事に家族の出席を働きかけ家族の意見や希望等を表明する機会をつくと共に、面会時には何でも言える雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、入居者の性格や特徴、好き嫌い等の引継ぎを綿密に行っている。新入職員は、夜勤3回はベテラン職員との2人体制を組み入居者に対するダメージの防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市の主催する各種研修会に参加し、報告書を作成のうえ運営会議で発表し意見交換を行っている。法人内での事故防止・感染症防止・身体拘束防止等各種対策委員会主催の研修会に参加すると共に、職員は業務に関する年間目標を立て3ヶ月毎に達成状況を記録し提出している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し大会に参加しているが、協議会支部が開催する職員相互派遣研修等には参加していない。法人のグループホームの管理者会議を2ヶ月毎に開催し、問題点の改善や外出レクリエーション等の情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。	○	法人外の同業者と交流する機会を持ち、職員相互派遣研修等を通じ、更なるサービスの質の向上に努められるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に管理者と介護支援専門員が家庭を訪問し、生活歴や希望等を聞くと共に、家族や本人がグループホームを見学し入居者と一緒にお茶を飲み歓談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑で野菜の栽培管理方法を教わったり、戦前の話や季節を感じるとる歳時記の話などをしながら床掃除や食事の準備を共に行う等、本人から学んだり支えあう関係を築くよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通じ、好きな歌や希望する入浴時間、食べ物の好き嫌い等を聞いている。また、意思表示の困難な入居者には、日々の会話の中での顔の表情から意向等を把握し、本人の希望に沿った支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活習慣を観察し、汲み取った意向や希望等を情報収集ノートに記録し、月2回開催している運営会議で話し合い介護計画に反映させている。6ヶ月毎の介護計画更新時には、管理者・担当職員・介護計画作成担当者が家族と話し合い、医師の診療情報提供書を基に、運営会議の意見を反映して作成している。介護計画は、個人の綴りに綴り込み日々のケアに活かした支援を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の体調変化等に伴い家族や医師・職員の意向等を反映した介護計画を作成し、介護計画を家族に交付し説明の後署名を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の対応が困難な時の受診時の送迎や付き添い、入院の際には洗濯物の交換等柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望するかかりつけ医の受診時には、バイタルチェック表を持参し、診療情報提供書を送付してもらっている。また、ホーム協力医に月2回往診してもらい、その都度診療情報提供書を頂くなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向に基づき、重度化や終末期を迎えた対応をしている。状態の変化の度に協力医が往診し、家族と話し合いを重ねる等家族の思いを尊重した支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁する入居者には定時に排泄誘導し、失禁時には他の入居者に気づかれないよう介護をするなどの気配りをしている。入室時にはノックと声かけを行う等プライバシーの尊重について職員と話し合いを重ねている。書類は事務室に保管する等個人情報保護の取り組みが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編物をする入居者、カラオケで好きな歌を唄う入居者、毎日朝と夕方入浴する入居者、朝起きて洗濯物をたたんだ後必ずコーヒーを飲む入居者など一人ひとりのペースを大切に、できる限り手助けをせず見守りを重視した支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れて献立表を変更し、食事提供記録表に記録し栄養士の確認を得ている。入居者が皮むきや野菜を刻むなどの準備や盛り付けを手伝ったり、入居者と職員でテーブルを囲みホットプレートでコロッケや焼きそば・蒸しパンなどを作って食事する機会を設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝と夕方入浴する入居者、畑仕事の後は必ず入浴する入居者等一人ひとりの希望に沿った入浴を行っている。また、入浴を拒否する入居者には、時間や日を変えて入浴をすすめ、バイタルチェック表で確認し週2日は入浴するよう支援している。		
っている。					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやボタンつけ、畑仕事や花の水やり、習字の得意な人にはメニューを書いてもらう等入居者にあわせて役割を担ってもらっている。また、季節に応じた歌をカラオケで楽しんだり、ドライブや花火見物等を行い、気分転換をしている。見守りを重視した介護をケア会議で話し合い、入居者の残存機能を活かし自立した生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のコンビニエンスストアでの買い物や神社へのお参りを兼ねた散歩に出かけている。また、法人が経営している特別養護老人ホームへの日々のゴミ出しを兼ねたドライブ、入居者の希望を取り入れ季節に応じたドライブや外食行事等を計画的に実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内の廊下の両端入り口にはセンサーがついているが、玄関・廊下の窓は夜間以外鍵をかけていない。入居者の居場所の把握に努め、職員間の連携を緊密にとっている。無断外出者には「ちょっと待って」の言葉かけを厳禁し、安全を確認しつつ後について歩き、疲れた頃合を見計らい声かけをして帰る等鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策マニュアルを作成し、昼間と夜間を想定した年2回の避難訓練を行っているが、避難経路や避難場所の設定が明確でなく、消防署の指導を受けていない。近隣の方々に災害時の協力依頼を行っている。	○	避難経路や避難場所を設定し、消防署の指導の下避難訓練が実施されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表に基づき栄養バランスのとれた食事を提供している。食事摂取量はバイタルチェック表で把握し、水分摂取量は医師から指示された入居者と水分補給の少ない入居者は水分チェック表で記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が常に季節を感じ取れるように玄関には季節の花が活けられ、食堂には職員が工夫して透明のゴムホースを折り曲げた花活けに菜の花が活けられている。また、入居者が作成した大きな鯉幟や桜の切り絵が飾られている。ホールが2つあり、ホールのソファアでは新聞やテレビを見たり、談話するなど思い思いに過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた筆筒や椅子が配置され、ピアノを持参した入居者もいる。また、若い頃の制服姿の写真や孫の写真が飾られる等居心地良く過ごせるよう工夫されている。		